

10月の行事報告 October

第30回 中原寺文化講演会を受講して 平成30年10月20日(土) 13時半～

光明の照護のもと中原寺仏教壮年会の皆様におかれましては念仏相續うるわしくお過ごしのことと拝察致しております。

この度、第30回中原寺文化講演会が平成30年10月20日、市川市の山崎製パン年金基金会館にて、佐々木 閑 花園大学教授をお招きし、「現代人のためのブツダの教え」の講題にて開催されました。毎年感心するのは、長年に渡り各界の著名人をお招きし講演会を開催し続けて来たことであり、お寺の文化事業に敬意を表する思いです。

この度はお釈迦様の教えそのものではなく、2500年前に遡ってインドにおける人々の宗教観から、世界三大宗教の一つと言われる仏教がどの様にして生まれて来たか、という歴史的背景を入り口とした大変興味深いお話から進まれました。私たちは日頃何の疑いもなく仏教は偉大な教えの一つであるという程度にしか捉えていないと存じます。確かに人間が進化の過程で他の生き物とは違い、ある種の宗教観を懐いていたことは古代史からも伺うことができます。世界の至る所に巨石文化の遺跡があるのもその証拠の一つです。当時のインドでも万物に神が宿ると言った宗教観の中から、世の中で一番えらい神は「ブラーマン(梵天)」であり、それがやがてバラモン教の始まりとなりました。しかしこの教えは職業によって生まれながら身分が決まるといった現代のカースト制度の基となりました。インド人は世界でも有数な優れた民族でありながら、他民族から見てこの悪しき風土がインドの近代化の足かせとなっている様に感じます。2500年前にも私たちと同じくこの不平等に異論を唱えるシュラマナ(沙門)と呼ばれる人々が存在し、あらゆる修業(苦行)を行ない、悟りを開き神になるかまたは神に近づこうと努力した人々がいて、お釈迦様はその人々の中の一人で「チャンピオン」とご講師は説明さ

れました。テレビで世界の不思議な奇行として爪を一生切らず伸ばし続けるインド人がよく紹介されます。私は興味本位でしか観ておりませんでした、その方々は2500年前からの修行(苦行)の一環を守り続けている人たちだったのかと思ひ感心しました。

お釈迦様は当時のシュラマナが行なった修行と大きく異なり、肉体への苦行ではなく人間の心の修行(精神集中)を説かれ、それが世界三大宗教の一つと言われる仏教の始まりだったとのこと。仏教では「生老病死」のテーマが基本であり、お釈迦様が人々は平等であると諭されたのは、人権の平等をお示しになったのではなく、老若男女を問わず人間は「生老病死」から逃れられない定めをすべからず平等に持っている、と示されたとのこと。

仏教では人間が持っている煩惱を断ち切るための心の修行が必要であり、長い年月を重ねて上座部仏教・大乘仏教に分れ、中国・朝鮮半島を経て日本に渡って来ました。貴族時代を経て、武士が台頭した鎌倉時代頃からの仏教ルネサンスにより一般民衆への仏教が開花し、数ある宗派が生まれました。私たちが帰依している浄土真宗は念仏行として親鸞聖人がお開きになった宗派であり、今日まで750年間守られてきた教えであることを改めてこの度の講演で拝聴し、大変興味深く理解致しました。貴重なお話を聞く機会に恵まれ感謝致します。 合掌 (多田羅 健二 記)



感話
シリーズ-26

【今年は「報恩講巡り」でお参り】

平成30年11月20日(火)・21日(水)

今年も浄土真宗で最も大切にしている報恩講の時節となりました。京都の本山西本願寺は旧暦(11月21日～28日)を新暦に治して1月9日～16日の8日間ですが、関東地方は先駆けて新暦10月から始まっているようです。

私達の所属寺である瑞雲山中原寺は11月20、21日に法要の営みがありました。今年もまた報恩講の感想文を書かせて頂けるご縁を頂き感謝申し上げます。初めての昨年の報恩講は全く訳が分からずのうちに終わりましたので、今年は前もって数ヶ寺の報恩講を巡って最後の総仕上げとして中原寺の皆さんとご一緒にお参りさせて頂きました。事始めの10月28日報恩講のご縁は前坊守のご実家の吉川市の清浄寺で、親鸞聖人の門弟の西念法師の開基という由緒ある寺でした。

続いて11月1日のご縁は築地場外市場内に立地の円正寺で、築地本願寺子院58ヶ寺の一つで現存残り少ない貴重な寺でした。両寺とも平野前住職がご講師を務める法話の拝聴で、壮年会のご同朋の山奥さん、盛田さんとご一緒にお参りさせて頂きました。平野前住職の「追っかけ」と冗談ながらも、慣れた中原寺でお聞きすることよりも、他所でのご聴聞は一層有り難く感じるのが不思議でした。

築地本願寺は11月10日が報恩講初日で荘厳な数十人僧侶の読経、ご作法から夜には正信偈、御絵伝と大勢での本堂でお参りは感激でした。三日目は6時30分からの晨朝勤行は平野住職も勤められた読経の中での参りは格別でした。続いて9時からの「ご示談」は相馬一意和上の質問による数少ない形式の法話で、大変有意義で良かったです。築地本願寺の6日間の報恩講の内、今年は急用があり2日間だけしかお参りできなかったことは残念でした。

もう一つは故郷岩手の実家関連から東北の玄関口で「白河の関」で有名な地にある大綱奥の坊常瑞寺という、浄土真宗第2世如信上人開基のお寺の報恩講にも行きました。「大綱本廟」は如信上人廟所で、近所に実父で親鸞聖人の長男の善鸞大徳の墓所もあり、珍しい参拝の経験もできました。親鸞聖人はお孫の如信上人に様々に御遺言され、東国の門弟の教化を任せ、如信上人が京都から旅立った1ヶ月半後に御往生を遂げられました。そして如信上人は毎年欠かさず祖父親鸞聖人の御命日を京都でお勤めされていた法要を覚如上人へ引き継がれ、それが報恩講となったと聞きました。



最後に今年の中原寺の報恩講は義本先生の巧みなご法話に大笑いしながらも、親鸞聖人臨終までの時代背景の一コマ一コマが大変分り良く理解が出来ました。

連夜法要での前住職の御伝鈔拝読とご満座法要の住職の読経は、とても荘厳な雰囲気、今でも脳裏に残っております。そして皆さんとご一緒にご本堂での正信偈の読経と「南無阿弥陀仏」の念仏の声は今回巡った5ヶ寺の中で一番「大きく」そして「揃って」いました。正覚大音 響流十方 日頃のお寺での説法が身に沁みました。(入月 正 記)



“つもり” 違いの10ヶ条

- 高いつもりで低いのが教養
- 低いつもりで高いのが気位 (注) 比べて優越感、劣等感と揺れ動く我慢
- 深いつもりで浅いのが知識
- 浅いつもり深いのが欲望 (注) 煩惱そのまま
- 厚いつもりで薄いのが人情 (注) 分別で見ると相手を物や道具に見る
- 薄いつもりで厚いのが面の皮
- 強いつもりで弱いのが根性
- 弱いつもりで強いのが自我 (注) ただものでない自我意識
- 多いつもりで少ないのが分別 (注) 分別が増えても煩惱まみれの執われの存在、少ないつもりで多いのが無駄
- そのつもりで頑張りましょう (注) 「これが私の現実 南無阿弥陀仏」と念仏しましょう



これは田端正久師のメールから頂いたものです。(注)は師のコメントです